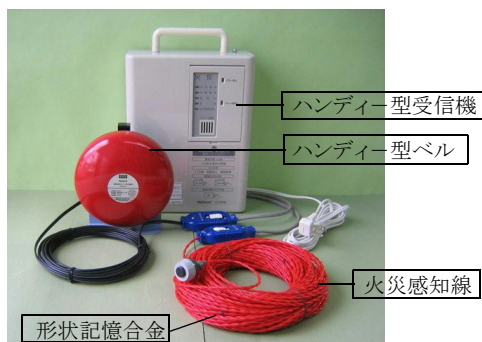


火災・放火の対策に便利な「ハンディー型火災報知器」

新技術／火災感知線の監視

「ハンディー型火災報知器」

「ハンディー型受信機と火災感知線を組合せた／ハンディー型火災報知器」



- 建築中の建物や建造中の船舶に現場の進行状況に対応した設置ができます。
- 住宅、マンション、ビル、工場の火災や放火のおそれのある場所のより近くに配線ができ、設置や移動が容易にできます。
- 家畜棟の火災のおそれのある場所のより近くに配線ができ、設置や移動が容易にできます。
- 屋内外に火災感知線を引出し配線すれば火災感知回路が完了し、火災警戒エリアができます。
- 火災や放火のおそれがある場所に手軽に設置できます。私設用火災報知器として設置します。
- 消防法令基準の定める定温式感知器1種(120秒)の性能に対応できる製品です。

< 火災・放火のおそれがある場所に「ハンディー型火災報知器」>



〔ハンディー型受信機〕



〔ハンディー型ベル〕



〔火災感知線〕

- ◇ 形状記憶合金(復元)と電線(軟化)を利用して2線芯間が短絡(接触)することで、異常温度を感知し、信号とします。設定温度80℃。また、電気設備の電線と同様の配線ができます。
- ◇ シンプルで簡単で精度も良く、スイッチング機能で待機電力ゼロのエコ技術製品です。
- ◇ 形状記憶合金は永続的記憶で錆がなく、一度作動すれば永続に保持します。
- ◇ 作動は電源不要の物理的動作で誤作動がなく敏速で精度良く長年に渡り使用できます。
- ◇ 非復帰型で作動後の確認ができます。(一度感知作動／再不能。作動個所を削除し接続替え)

- ◆ 建設中の建物や建造中の船舶、航空機、車両および、建設中のプラント工事にご使用下さい。
- ◆ 住宅、マンション、ビル、工場建物や外周りにご使用下さい。
- ◆ 家畜棟などの建物にご使用下さい。
- ◆ 寺院・神社の境内や建物などの火災や放火のおそれのある場所や建物にご使用下さい。
- ◆ 防火用品の備品にご使用下さい。私設用火災報知器として設置します。

スペースワークス

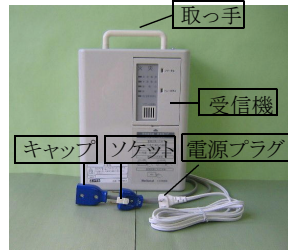
新開発の超小型火災センサはスイッチング機能で待機電力ゼロの環境にやさしいエコ技術です

火災・放火の対策に便利な「ハンディー型火災報知器」／製品仕様

＜ハンディー受信機と火災感知線を組合せた「ハンディー型火災報知器」＞



〔ハンディー型火災報知器〕



〔ハンディー型受信機〕



〔ハンディー型ベル〕



〔火災感知線〕

【構造・機能】

1. 受信機(市販)及び、火災感知線(電線一体型火災センサ)並びにベルから構成します。設置、配線、移動が簡単にできるハンディー型火災報知器です。私設用火災報知器として設置します。但し、各機器については、下記事項とします。
 - (1)受信機(市販)は、取っ手を取付け、持ち運びできるハンディー型受信機とします。また、感知器回路及び音響回路にキャップ付きコード(1m)を取付け、電源回路にソケット付きコード(2m)を取付けます。
 - (2)火災感知線は、端末にソケットを取付け、その先端に握り押釦(火災押釦)を取付けます。火災試験を行います。
 - (3)ベルは、自立金具を取付け、ハンディー型ベルとします。また、ベルは、端子台を介してソケット付きコード(5m)を取付けます。
2. (イ)建築中の建物や建造中の船舶、航空機、車両等および、(ロ)設置がない住宅、マンション、ビル、工場等の外周りに並びに、(ハ)法令設置基準が無い家畜棟等にハンディー型火災報知器を設置し、火災感知線を引出配線すれば火災感知回路が完了し、火災警戒エリアができ、火災感知線を巻取り、必要な場所に移動して機器の設置や配線が容易にできます。現場の進行状況に対応した設置ができます。
3. 例えば、各々於いて火災が生じた時、配線をしている火災感知線が火災発生を感知し、ハンディー型受信機の電子音及び、ハンディー型ベルが鳴り火災の発生を周囲に報知します。ハンディー型受信機の火災信号で、防火対象物の関係者(警備保障会社)に火災を報知することもできます。
4. このように、設置が不可能であった建築中の建物および、設置がない住宅などの外周りに並びに、法令設置基準が無い家畜棟などに私設用にハンディー型火災報知器を設置することで、火災を早期に発見して、初期消火により、未然に防止できます。

【備考】火災感知線は延長した電線に等間隔で形状記憶合金を多数組合せ一体化した製品です。設定温度80℃

新開発の超小型火災センサはスイッチング機能で待機電力ゼロの環境にやさしいエコ技術です

【仕様】

■ハンディー型火災報知器(型番A10H-H)・(型番B10H-H)

| 名 称 | 型番 | 内 容 (規格・その他) | 標準価格 |
|--|--------|--------------------------------------|----------|
| ■ハンディー型火災報知器 | A10H-H | 【詳細1】+【詳細2】+【詳細3】【A】 | ¥ 87,000 |
| ■ハンディー型火災報知器 | B10H-H | 【詳細1】+【詳細2】+【詳細3】【B】 | ¥ 88,500 |
| 【詳細1】ハンディー型受信機 | H-J | (1) + (2) 65,000円 + 5,000円 = 70,000円 | ¥ 70,000 |
| (1) P型2級受信機(型番BV1219) 樹脂製・寸法(260×200×78): パナソニック電気・標準価格65,000円 | | | |
| (2) 取っ手/コネクタ付コード(3本)(材工共一式)(型番TC): 標準価格 5,000円 | | | |
| 【詳細2】ハンディー型警報ベル | H-B | (1) + (2) 3,700円 + 5,300円 = 9,000円 | ¥ 9,000 |
| (1) 6型ベル(150mm)・DC24V・露出型(型番BV92631): パナソニック電気・標準価格3,700円 | | | |
| (2) 自立型金具(端子台・ソケット付コード5m) (材工共一式)(型番KC): 標準価格5,300円 | | | |
| 【詳細3】【A】火災感知線(押釦付) | A10-SB | (1) + (2) 5,000円 + 3,000円 = 8,000円 | ¥ 8,000 |
| (1) 火災感知線(80℃)(型番A): 標準価格500(円/m) 電線に1.5mの等間隔の火災センサを取付け。 ◆火災感知線(10m)(型番A10): 標準価格5,000 = 500(円/m) × 10(m) | | | |
| (2) 火災押釦/ソケット(材工共一式)(型番SB): 標準価格3,000円 | | | |
| 【詳細3】【B】火災感知線(押釦付) | B10-SB | (1) + (2) 6,500円 + 3,000円 = 9,500円 | ¥ 9,500 |
| (1) 火災感知線(80℃)(型番B): 標準価格650(円/m) 電線に1.0mの等間隔の火災センサを取付け。 ◆火災感知線(10m)(型番B10): 標準価格6,500 = 650(円/m) × 10(m) | | | |
| (2) 火災押釦/ソケット(材工共一式)(型番SB): 標準価格3,000円 | | | |

【備考事項】 火災感知線(80℃): (型番A)・(型番B)は下記に記載します。

- ◆火災感知線(80℃): (型番A) 電線に1.5m等間隔の火災センサを取付け【1.5m間隔】[¥ 500/m]
- ◆火災感知線(80℃): (型番B) 電線に1.0m等間隔の火災センサを取付け【1.0m間隔】[¥ 650/m]

| 名 称 | 型 番 | 設定温度 | 可溶絶縁電線/長さ | 形状記憶合金(5巻) | 標準価格 |
|-----------------|--------|----------|----------------|--------------|---------|
| 【A10】火災感知線(10m) | A10-80 | 80℃(±10) | 0.75sq×2C(10m) | 7ヶ所(1.5m間隔) | ¥ 5,000 |
| 【B10】火災感知線(10m) | B10-80 | 80℃(±10) | 0.75sq×2C(10m) | 10ヶ所(1.0m間隔) | ¥ 6,500 |

備考1. 標準規格(長さ): 10/20/30/40/50/100m巻があります。

備考2. 設定温度80℃以外、電線の長さ、センサの間隔、個数などの製品も可能です。ご相談下さい。

備考3. 非復帰型で作動後の確認ができる。(一度感知作動/再不能。作動個所を削除し接続替え)

<ハンディー型火災報知器の一覧>



[ハンディー型火災報知器]
[A10H-H]



[ハンディー型受信機]
【詳細1】



[裏面]



[ハンディー型ベル]
【詳細2】



[火災感知線]
【詳細3】【A】又は【B】

「シーリングシステム/温度センサの開発」

スペースワークス

〒621-0847 京都府亀岡市南つつじヶ丘桜台2丁目2番8号

TEL 0771-25-3430

Fax 0771-25-4932

E-Mail wadakame@siren.ocn.ne.jp

新開発の超小型火災センサはスイッチング機能で待機電力ゼロの環境にやさしいエコ技術です

建築工事中の建物の火災対策に「ハンディー型火災報知器」の設置／施工例

■ 建築工事中の建物に於ける安全管理と対策

【1】建築中の建物に於ける火災の安全管理について

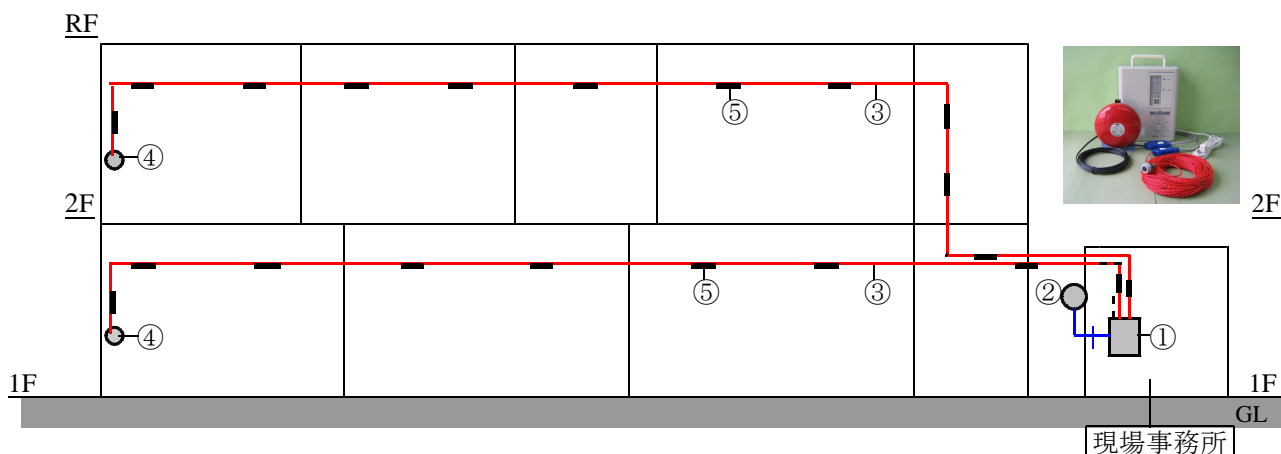
1. 建築工事中の建物は火気使用の作業や火の粉が発生する作業があり、また煙草の不始末や放火など、これらの原因の小火や火災が大火災に発展することもあり、年々増加傾向にある。
2. それらの小火や火災を未然に防止できる防火安全対策が必要である。また、火災や放火に対応できるより現実的な火災報知設置が重要です。

【2】建築中工事の建物に於ける火災の安全管理の対策

☆下記(図-1)は建築工事中の建物を示す。

1. 建築工事中の建物にハンディー型火災報知器を設置し、火災感知線を引出配線すれば火災感知回路が完了し、火災警戒エリアができ、火災感知線を巻取り、必要な場所へ移動して機器の設置や配線が容易にできる。現場の進行状況に対応した設置ができる。
2. 火災感知線③を建築工事中の建物全体に張り巡らす。(造営材に結束バンド／ひも、バインド線やクリップ、サドルなどを利用して、火災感知線を仮設配線する)
特に火災の恐れのある場所や放火のおそれのある場所は重点的に張り巡らす。
3. 例えば、建築工事中の建物に火災が生じた時、建物に配線をしている火災感知線③が火災発生を感知し、ハンディー型受信機①の電子音及び、ハンディー型ベル②が鳴り火災の発生を周囲に報知する。ハンディー型受信機①の火災信号(外部移報用接点)で、防火対象物の関係者(警備保障会社)に火災を報知することもできる。
4. このように、建築工事中の建物の火災を早期に発見して、初期消火により火災を未然に防止する事ができる。
5. 従来より、火災報知設備の設置が困難であった建築工事中の建物に於いて、ハンディー型火災報知器は現場の進行状況に対応した設置ができる。

(図-1) << 建築工事中の建物 >>



| シンボル | 名 称 | シンボル | 名 称 |
|------|-----------------------|-------|------------------------|
| ■ ① | ①ハンディー型受信機(P型2級受信機) | — ③ — | ③火災感知線(80℃)【センサ1.5m間隔】 |
| ● ② | ②ハンディー型警報ベル(6型ベル150Ø) | ③ ⑤ | ⑤形状記憶合金(火災メモリセンサ) |
| —+— | コード 0.75×2C | ○ ④ | ④火災押釦(火災試験用) |

新開発の超小型火災センサはスイッチング機能で待機電力ゼロの環境にやさしいエコ技術です

建物などの火災・放火対策に「ハンディー型火災報知器」の設置／施工例

■ 火災・放火おそれがある建物に於ける安全管理と対策

【1】火災・放火おそれがある建物に於ける火災の安全管理について

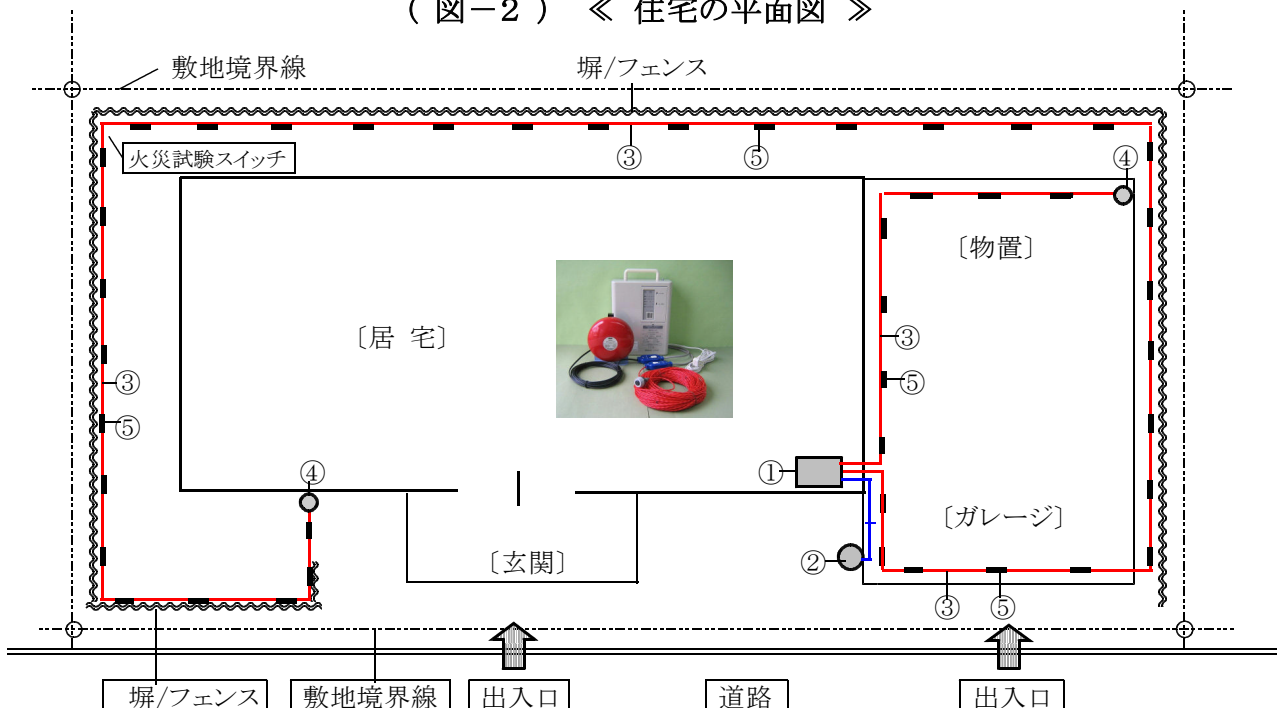
1. 住宅などの火災や放火および、放火の疑いによる火災が近年多発している。
2. それらの火災や放火を未然に防止できる防火安全対策が必要である。また、火災や放火に対応できるより現実的な火災報知設置が重要です。

【2】火災・放火おそれがある建物に於ける火災の安全管理の対策

☆下記(図-2)は住宅の平面図を示す。

1. 火災や放火のおそれがある建物にハンディー型火災報知器を設置し、火災感知線を引出配線すれば火災感知回路が完了し、火災警戒エリアができ、火災感知線を巻取り、必要な場所に移動して機器の設置や配線が容易にできる。設置場所に対応した設置ができる。
2. 火災や放火のおそれがある住宅、マンション、ビル、工場などの建物の側壁やガレージ、物置、ゴミ置場、倉庫などの外周りに火災感知線を引出張り巡らす。
3. 例えば、住宅のガレージ／物置／ゴミ置場などの外周りに於いて、放火による火災が生じた時、配線をしている火災感知線③が火災発生を感知し、ハンディー型受信機①の電子音及び、ハンディー型ベル②が鳴り火災の発生を周囲に報知する。ハンディー型受信機①の火災信号(外部移相用接点)で、防火対象物の関係者(警備保障会社)に火災を報知することもできる。
4. このように火災や放火を早期に発見して、初期消火により火災を未然に防止する事ができる。
5. ハンディー型火災報知器は火災報知設備の設置が困難であった場所に設置できる。

(図-2) << 住宅の平面図 >>



| シンボル | 名 称 | シンボル | 名 称 |
|------|-----------------------|------|------------------------|
| ■① | ①ハンディー型受信機(P型2級受信機) | —③— | ③火災感知線(80℃)【センサ1.5m間隔】 |
| ●② | ②ハンディー型警報ベル(6型ベル150φ) | ③ ⑤ | ⑤形状記憶合金(火災メモリセンサ) |
| —+— | コード 0.75×2C | ●④ | ④火災押釦(火災試験用) |

新開発の超小型火災センサはスイッチング機能で待機電力ゼロの環境にやさしいエコ技術です

家畜建物の火災対策に「ハンディー型火災報知器」の設置／施工例

■ 家畜建物に於ける安全管理と対策

【1】家畜建物に於ける火災の安全管理について

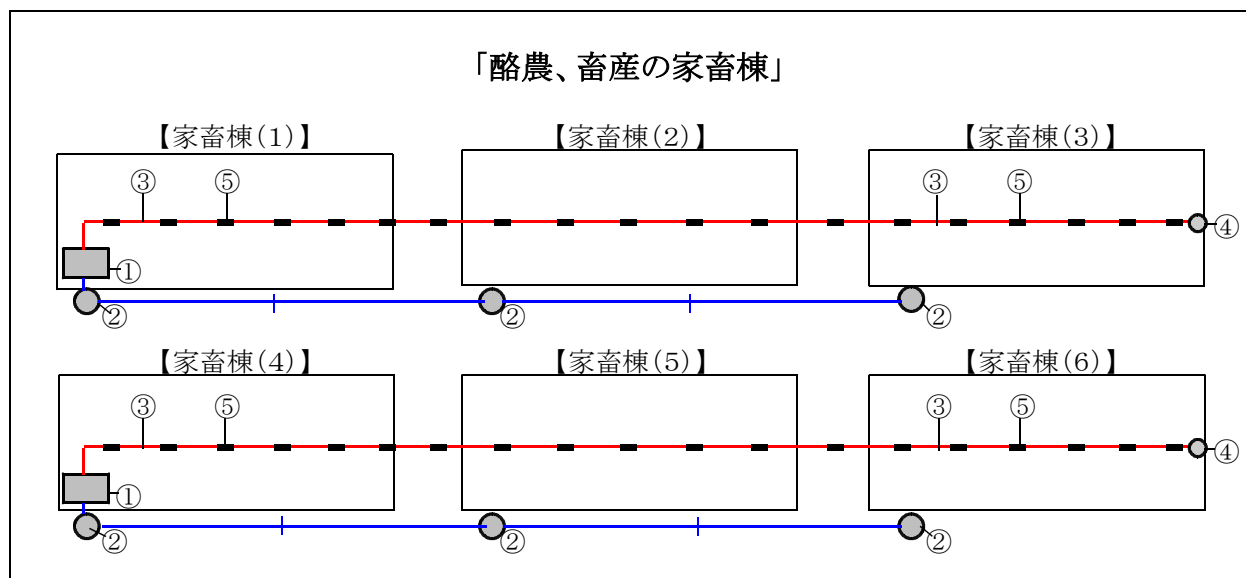
1. 家畜建物の火災が毎年数多く発生しており、一度に数千、数万の各種の家畜が死んでいる。
2. その火災を未然に防止できる防火安全対策が必要である。また、家畜棟の火災に対応できるより現実的な火災報知設置が重要です。

【2】家畜建物に於ける火災の安全管理の対策

☆下記(図-3)は畜産の家畜棟の平面図を示す。

1. 家畜建物にハンディー型火災報知器を設置し、火災感知線を引出配線すれば火災感知回路が完了し、火災警戒エリアができ、火災感知線を巻取り、必要な場所へ移動して機器の設置や配線が容易にできる。設置場所に対応した設置ができる。
2. 家畜棟などに火災感知線を引出張り巡らす。(造営材に結束バンド／ひも、バインド線やクリップ、サドルなどを利用して、火災感知線を仮設配線する)
3. 例えば、家畜棟で火災が生じた時、配線をしている火災感知線③が火災発生を感知し、ハンディー型受信機①の電子音及び、ハンディー型ベル②が鳴り火災の発生を周囲に報知する。
ハンディー型受信機①の火災信号(外部移報用接点)で、防火対象物の関係者(警備保障会社)に火災を報知することもできる。
4. このように火災を早期に発見して、初期消火により火災を未然に防止する事ができる。
5. ハンディー型火災報知器は火災報知設備の設置が困難であった場所に設置できる。

《 畜産の家畜棟／配置平面図 》 (図-7)



| シンボル | 名 称 | シンボル | 名 称 |
|-------|-----------------------|-------|------------------------|
| ■ ① | ①ハンディー型受信機(P型2級受信機) | — ③ ⑤ | ③火災感知線(80℃)【センサ1.5m間隔】 |
| ● ② | ②ハンディー型警報ベル(6型ベル150Ø) | ○ ④ | ④火災押釦(火災試験用) |
| — + — | コード 0.75×2C | | |

新開発の超小型火災センサはスイッチング機能で待機電力ゼロの環境にやさしいエコ技術です